

全日空

版 コ ス ネ シ

高知新聞 No. 297

本編同レ

新愛媛新聞 No. 124

No. 462 37.11.23

川口新聞 No. 138

特集 空と海の惨事

一、死の訓練飛行 全日空機墜落

— 愛知

十一月十九日午前十一時三十分頃、愛知県豊田市郊外上空を訓練飛行中の全日空パイカウント四発旅客機が突然キリモミ状態で勘八山山中に墜落乗っていた吉野機長はじめ四人全員が死亡する事故が起りました。

この事故は全日空の操縦士に双発機から四発機の操縦を訓練している最中に起ったもので、乗客はなく大惨事に至らなかったのがせめてもの幸いでした。しかしこの訓練飛行は羽田をはじめ小牧、福岡など全国の飛行場ではほとんど毎日行なわれており、事故原因の追求が急がれています。

一、炎の海を恨む

— 京浜運河の教訓

十一月十八日、午前八時二十分頃横浜港の京浜運河内で折から出港中のノルウェー船タンカープロビク号と入港中の出光興産系のガソリンを満載した第一宗像丸が衝突、更に附近を航行中のハシケが通過した際、衝突で海中へ流れ出たガソリンから突然発火、第一宗像丸、プロビク号の両船は大火災を起し更にこの火災で海中に飛び込んだ第一宗像丸の乗組員三十六人全員が火の海に巻きこまれ、全員死亡するという大惨事を惹き起しました。

事故現場となった京浜運河は、横浜港と川崎港を結ぶ、ハシケ専用の運河であったのが近年この地帯はコンビナート地帯としてめざましい発展を遂げたため、大型船舶の出入りもはげしくこの運河の通行量は日に三百隻以上、いわば飽和状態にあったといわれ更に、この地帯は工場よりはき出されるパイ煙の為、スモッグがひどく名物にさえなっているところ、更に運河内では船舶の右側航行が規制されているにもかかわらず、最近では小型船のカミナリ運航は特に乱脈を極め、この惨事が起る以前すでに十数回の衝突事故があったといわれています。だがこうした大惨事が起ってしまった現在、この様な事故は未然に防ぐことが出来なかったのでしょうか、起るべく起ったというには余りにも大きな教訓であった様です。

61-3

√-43

110